

原発事故 砂触れなかった子

団体職員

(石川県 29)

これは私の友人の実話である。

ある日、友人は息子が通う保育園の保育士さんに「〇〇くん、どうかされましたか。みんなが砂場で遊んでいる時、参加せずにじっと我慢しているみたいなんです」と聞かれた。友人は以前、千葉県に住んでいた。東京電力福島第一原発事故後、近所に防護服を着た人が来た。放射線量が高いホットスポットが見つかり、様々な情報が行き交った。事故から約1年後、家族と石川県に避難した。

しかし、避難した土地で息子は自然に触れない。友人は反省し

た。植物、土、虫に触れようとした息子の手を遮り「やめようね」と何度も言ったからだろうか、息子の手を洗う時の私たち親の不安な表情を見ていたのかと。友人は息子にもう大丈夫だと伝え、一緒に外で遊ぶようにした。砂遊びが出来るようになるまで約1年かかった。今は元気に遊び、泥だらけになって帰ってくるという。

この話を聞いた時、原発事故のことを知っているつもりで、何も知らなかった自分がとても恥ずかしくなった。友人だけでなく、たくさんさんの人の日常が奪われたことを、事故はまだ続いている現実を決して忘れてはいけない。